特定非営利活動法人
日 本 テクニカルアナリスト協 会
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町3－3

Phone 03-5847-2231
Fax 03-5847-2232
Website http://www.ntaa.or.jp
E-mai office@ntaa.or.jp

2011 年 IFTA (国際テクニカルアナリスト連盟) 大会

登録受付開始のお知らせ

国際部

IFTA (国際テクニカルアナリスト連盟)) の本年の大会 (第 24 回大会) は、9 月 22 日 (木) から 24 日 (土) までの 3 日間、旧ユーゴスラビアのボスニア・ヘルツェゴビナのサラエボで開催されます。 (当初予定していた 10 月から日程が変更になりました。)

今年の大会は以下の通り、例年の大会にはないメリットが多くあります。興味のある会員の方は、積極的に参加を検討されることをお勧めします。(7 月 17 日までに参加登録すると参加料が割引になりますので、参加される方は、早めの登録をお勧めします。)

*** 本年の IFTA 大会の特徴 ***

1) 大型連休と重なり参加しやすい日程:
開催日程 (9 月 22 日～24 日) が、日本の秋の大型連休シーズン (シルバー・ウィーク) に重なります。昨年までの大会は 11 月または 10 月開催が恒例で、会社の仕事上、休みをとってまで参加しにくいという会員の方々も多かったようですが、今年は多くの会員の方々にとって参加しやすいと思われる日程です。

具体的には、9 月 19 (月) と 23 (金) は日本の祝日ですが、会社勤めの協会員の方でも、20 日 (火)、21 日 (水)、22 日 (水) の 3 日間有給をとると、17 日 (土) ～25 日 (日) まで 8 連休となります。そのうち 3 日間を IFTA 大会に使い、残りの 5 日間を移動と観光に使うというプランも可能になります。

2) 世界レベルのテクニカル分析の研鑽と世界交流の機会:
IFTA 大会では世界各国からのスピーカーが講演を行い、各国のテクニカル・アナリスト協会から多くの会員が参加します。このため、大会への出席は、世界レベルのテクニカル分析の研鑽を積むと同時に、世界各国からの参加者との交流をするいい機会になります。

3) 国際舞台での日本のトップ・アナリストの活躍を見る機会:
今年の大会では、日本のトップ・テクニカル・アナリストである吉野豊さん (SMBC 日興証券) と、

宮田直彦さん（三菱 UFJ モルガンスタンレー証券）が、世界各国のスピーカーに交じり、講演を行います。（吉野さんの講演は初日、宮田さんの講演は2日目です。）会員の殆どの方はご存知と思いますが、お二人は日経アナリスト・ランキングでトップ（2位、3位）にランクされる実力テクニカル・アナリストですが、このお二人の世界舞台での活躍を見ていただくことができます。震災で大きな試練を受けた日本ですが、お二人の参加で、世界各国から集まる大会参加者が感銘を受けるものと予想されます。特に、日本からの大会参加者は、（特にこのタイミングでの）国際舞台での日本人スピーカーの活躍に勇気付けられるのではないかと思われます。特に、将来、吉野さんや宮田さんのように、国内外の舞台で活躍したいと考えている会員の方々には、必見の機会かと思われます。

4）日本発祥のテクニカル分析手法の海外での人気度を直接肌で感じ、海外へ発信・紹介する方法を学ぶ機会：

吉野さんには世界で人気急上昇中の一目均衡表、宮田さんはエリオット波動理論をベースとする分析の講演を、それぞれして頂きます。言わずもがな、一目均衡表の発祥地は日本です。エリオット波動理論の発祥は米国ですが、宮田さんの分析手法は、エリオット理論を使いながらも、サイクル分析、その他の多くの手法を組み合わせた完成度の高いものであり、発祥地の米国を超えていると思われます。大会に参加することにより、これらの分析手法が海外でどのくらい評価され人気化しているかを、他人から聞いた話ではなく、自分の肌で直接感じることができます。

また、お二人の講演は、グローバルに投資を考える海外のプロを相手に、英語での講演となりますので、日本で日本人向けに講演をするときとは、趣の異なる講演になると思われます。このため、日本発祥のテクニカル分析をベースとする講演でも、本大会に参加することにより、日本にいてはできない貴重な体験をすることができます。特に、IFTA 大会またはその他の場所で、日本発のテクニカル分析を海外に発信・紹介したいと考えている会員の方々には、格好の機会かと思われます。

5）低価格

開催地のサラエボは旧ユーゴスラビアにあり、日本人の感覚からすると全般的に物価高の欧州の中にあり、物価が比較的低く、大会参加費も例年よりかなり低く抑えられています。7 月 17 日までに参加登録すると早期登録割引で 1000 ドルです。円高ということもあり、直近の為替レート（1ドル＝80 円とすると）で換算すると、日本円で約 8 万円で大会にフルに参加できます。（初日の夕食（レセプション）、最終日の夕食（ガラ・ディナー）込み、大会3日間、昼食付です。）7 月 17 日以降はノーマル価格の 1150 ドル（同 9 万 2 千円）となります。この参加費は、以下の通り、例年より低いです。また来年以降、このような低い参加費が設定される可能性は低いと思われます。今年の大会に参加可能な会員の方は、この機会を利用することを検討することをお勧めします。

特定非営利活動法人
日本テクニカルアナリスト協会
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町3－3
Phone 03-5847-2231
Fax 03-5847-2232
Website http://www.ntaa.or.jp
E-mai office@ntaa.or.jp

① 大会参加費

・ 昨年のベルリン大会の参加費は、早期登録価格で1480ドル（当時の為替レートで約11万5千円）、ノーマル価格で1580ドル（同13万円）でした。その前の欧州での開催となった2008年のパリ大会の参加費は、早期登録価格で1100ユーロ（当時の為替レートで約14万円）、ノーマル価格で1430ユーロ（同18万円）でした。

・ 来年以降の大会参加費は未定ですが、今年の大会ほど低く設定される可能性は低いと思われます。来年以降、早期登録で1500ドル、ノーマル価格で1750ドル程度の参加費が設定されるとすると、今の円高が続けば（1ドル＝80円とすると）、12万円（早期登録価格）、14万円（ノーマル価格）となります。しかし、円高がいつまでも続くわけではなく、遠くない将来、長く続いた円高トレンドが終焉し、長期円安トレンドに入る可能性も十分考えられるところです。（購買力平価では円の実力は現在、1ドル＝約110円ですが、人口減少による国力の低下に加え、震災による経常収支の悪化なども予想されるため、長期にわたる円高への反動が起きれば、140－150円くらいまでの円安になっても不思議でないとの予想もあります。テクニカルにも、ドル円は現在、16年半サイクルの底打ちのタイム・ウィンドウの最中で、歴史的な大底圏にあり、数年後には大幅な円安が進行しているであろうとの見方が有力です。）仮に1ドル＝110円になるとすると、参加費は早期登録価格で16万5千円、ノーマル価格で19万2500円、仮に150円になるとすると、早期登録価格で22万5千円、ノーマル価格で26万2500円になると試算されます。（※）

② ホテル

大会会場であり、大会参加者の宿泊施設でもあるホテル・ヨーロッパ（Hotel Europe）は5つ星の高級ホテルですが、8月19日までに予約すると、IFTA大会参加者の特別割引料金が適用され、以下の料金で宿泊可能です。（他の場所では、この価格で5つ星のホテルに滞在することはなかなか難しいと思われます。）

・シングル： 144 KM（マルカ） 約8,640円
・ダブル： 195 KM（マルカ） 約11,700円
・スイート： 245 KM（マルカ） 約14,700円

1KM（マルカ）＝60円で計算

6）ユニークな見聞を深める機会：

開催地のサラエボは、旧ユーゴスラビアから独立した国のひとつであるボスニア・ヘルツェゴビナの首都です。旧ユーゴスラビアというと、おそらく多くの日本人にとって馴染みの薄い場

所ですが、それだけに、西ヨーロッパでは体験できないユニークな見聞を深める機会になります。

① 開催地：サラエボ

ボスニア・ヘルツェゴビナは、東西の文化の十字路であり、複数の民族が共存しています。歴史的にも、オスマン・トルコ、オーストリア・ハンガリー帝国等、異なる支配者文化の影響を受けてきました。このため、欧州にありながら、（イスラム文化の影響を含め）多民族の重層的な文化を残す歴史的な側面を持つ土地柄です。このため、この地を訪れることは、（西ヨーロッパを含め）他ではなかなか触れることができないものに接するユニークな体験をする機会となります。

サラエボは、ボスニア・ヘルツェゴビナの首都であり、同国で最大の人口（30 万人強）をもつ都市です。2000 メートル級の山々（ディナール・アルプス）に取り囲まれた標高約 500 メートルの渓谷（サラエボ渓谷）の町です。サラエボの町は宗教的な多様性で知られており、イスラム教、正教会、カトリック教会、ユダヤ教が何世紀にもわたって共存してきました。（主な民族は、ボスニア人（イスラム教徒）約 44%、セルビア人（セルビア正教徒）約 31%、クロアチア人（カトリック教徒）約 17%ですが、ユダヤ人等も数世紀にわたり住んでいます。）このため、しばしば、ヨーロッパの「エルサレム」と呼ばれてきました。

サラエボには魅力的な町であり、世界最大の旅行ガイドブックのロンリー・プラネット（世界のガイドブック・シェア約 25%）は、2006 年の「世界のベスト・シティー」ランキングにおいて、サラエボを 43 位にランクしました。これは、同じ旧ユーゴスラビア諸国の観光都市であるドブロブニク（クロアチア）の 59 位、リュブリャナ（スロベニア）の 84 位、ブレッド（スロベニア）の 90 位などを上回ります。更にロンリー・プラネットは 2009 年に、「2010 年に訪問するべき『世界の上位 10 都市』」のひとつに、サラエボを選びました。サラエボはまた、ヨーロッパで初めて、そして全世界で 2 番目に早く終日（朝から夜まで）運行の路面電車が運行された町です。（なお、１番目はサンフランシスコ。）日本のガイドブック等の記述から来るイメージとは随分異なります。

サラエボの歴史はというと、この地域に人が居住を始めたのは先史時代にまでさかのぼるものの、現代のサラエボにつながる町ができたのは 15 世紀のオスマン・トルコ帝国の統治下でのことでした。その後、オーストリア・ハンガリー帝国に征服され、併合されました。第二次大戦後は共産圏に組み込まれたものの、そのなかで、非同盟、民族友愛、自主管理社会主義を柱とした、独自の発展を遂げました。更に後のユーゴスラビア崩壊のときには、数年間にわたるセルビア人勢力

による包囲を受けましたが、今は平和を取り戻し、町のほとんどの部分は再興されるか再開発され、紛争による目に見える破壊された建物の痕跡は町の中心では僅かとなりました。現代的なオフィス・ビルディングや高層建築物が各地で建設されています。サラエボ証券取引所は 2002 年に取引を開始しました。

スポーツ関連では、1984 年に冬季オリンピックがサラエボで開催されました。同オリンピックでは、北沢欣浩選手が男子 500 メートル・スピード・スケートで 2 位となり銀メダルを獲得しました。日本人選手としてスピード・スケートで初出場となった 1932 年のレークプラシッド･オリンピック以来 52 年目の初のメダルを獲得でした。

サッカーが盛んな土地柄ですが、日本代表監督を務めたイビチャ・オシム氏もサラエボ出身です。サッカー・ファンならご存知の通り、同氏は 1964 年の東京オリンピックのユーゴスラビア代表の一員として初来日しました。生まれて初めて見るカラーテレビや近代的な大都会・東京に感激したそうですが、ある日合宿地近くの都市をサイクリングしていた時、見ず知らずの老婆からいきなり梨を振る舞われ、日本人のホスピタリティに触れ、親日家になったそうです。帰国後、友人のサッカー選手、ヨシップ・カタリンスキー氏に、「日本人は親切で誠実だ。とても歓迎されて、すぐに好きな街になった」と興奮気味に語っていたとのことです。1991 年に 27 年ぶりに来日、東京オリンピック当時と比べ、日本のサッカーレベルの向上に驚き、2002 年に FIFA 技術委員会メンバーとして日韓ワールドカップのため 3 度目の来日、2003 年にジェフユナイテッド市原・千葉の監督に就任、2006 年に日本代表監督に就任しました。（2007 年 11 月に脳梗塞で倒れ、退任。）趣味は料理、相撲観戦、日本酒も嗜みます。同氏の影響で日本に興味を持った欧州の選手やサッカー関係者もおり、前述のカタリンスキー氏は、ボスニアで知日家として知られるまでになり、一時は駐日大使就任の要請もあったと語っていたそうです。

対日感情も非常に良好のようです。オシム氏や同氏の影響を受けたサッカー関係者の影響もあるのでしょうが、それだけではなく、ボスニア・ヘルツェゴビナでは、多くの人たちが日本に親しみを持っているようです。1990 年代、旧ユーゴスラビアからの独立時の紛争の際、難民に対し国際的な人道支援がなされましたが、現地の人の話によると、その時の日本人部隊の支援が最も人道的で、困っていた人たちに質の高い物資を供給してくれたと評判だったとのことです。日本の ODA で導入されてステッカーも貼られている市内バスが走っているとの情報もあります。日本が今年の 3 月の大震災に遭った際、当協会は IFTA 加盟の世界各国のテクニカル・アナリスト協会から多数のお見舞いを受けましたが、真っ先にお見舞

いを送ってくれた協会の一つがボスニア・ヘルツェゴビナの協会でした。

いずれにしても、平和を取り戻したボスニア・ヘルツェゴビナでは、人々の表情も随分明るくなってきており、元々、渓谷の美しい町で、600 年の歴史を背景に強力な観光産業を有するサラエボに訪れる観光客が、年々増えています。同地を訪れることで、他ではできないユニークな体験が可能となるでしょう。
（以上、在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本大使館、ウィキペディア等から。）

② 隣国：クロアチア

開催国のボスニア･ヘルツェゴビナの隣国であるクロアチアには、「アドリア海の真珠」とうたわれる美しい町並みを誇り、1979 年に世界遺産に登録されアドリア海沿岸でも傑出した観光地であるドブロブニク（Dubrovnik）やスプリット（Split）（いずれも世界遺産）など、美しい街が多く存在しているほか、プリトヴィッツェ湖群国立公園プリトヴィツェ湖群国立公園（Plitvice Lakes National Park）（世界遺産）等、内陸部にも見所は多くあります。（グーグルで、「ドブロブニク」、「Dubrovnik」、「クロアチア･スプリット」、「Croatia Split」、「Plitvice Lakes National Park」、「プリトヴィッツェ」等で画像検索すると、美しい写真が多数検索されます。）

以上のように、本大会への参加は、日本人スピーカーを含む世界各国のスピーカーによる講演、世界の国々からの参加者との交流等を通じ、テクニカル分析の研鑽を低価格で積む機会であると同時に、ユニークな見聞を深める機会になりますので、関心のある協会員の方は、参加を検討してみてはいかがでしょうか。

後日、旅行案内を追加する予定です。

リンク：
･IFTA ウェブサイト･2011 年大会のページ http://www.ifta.org/events/next-conference/
･2011 年 IFTA 大会のパンフレット(英語) ※日本語訳は準備中です。完成したら掲載します。
http://www.ifta.org/public/files/events/next-conference/ifta_broch_conf_11.pdf
･大会参加登録のページ https://www.ifta.org/register/annual_conf24.php
･大会開催会場･宿泊施設となるホテルの情報 http://www.hoteleurope.ba/

※ ここに記した為替レートの見通しは、このような見方もあるとの参考情報の提供を目的としたものあり、当協会の為替レート予想でも投資行動の推奨でもありません。この情報によって生じたいかなる損害についても、当協会および執筆者は一切の責任を負いません。